令和２年度　第２回福岡大学病院医療安全監査委員会

日　　時　　令和３年３月19日（金）
形　　式　　メール及び書面による会議
受　　審　　福岡大学病院
監査委員会：〔委員長〕古賀 和徳、深川 直美、一木 孝治（産業医科大学病院）、
林 覚竜（南蔵院）、坪井 義夫（院内委員）
福 大 病 院：岩﨑 明憲、藤田 昌樹、川嵜 弘詔、白石 武史、小吉 里枝、
鷲山 厚司、押川 麻美、川原 義弘、浜内 和也、中村 伸理子、
兼重 晋、窪山 矢季、志垣 都、小柳 利行、石田 頼識

監査事項
1.　令和２年度業務改善計画とその実施状況について：再評価等を行ったもの
2.　令和２年度の医療安全対策マニュアル改訂のポイントについて
3.　令和２年度の貴院における医療安全に係る研修の開催状況について

【講評】
1.　令和２年度業務改善計画とその実施状況について：再評価等を行ったもの
今年度の業務改善計画とその実施状況の中で、定期的な評価や見直し等が実施されている実例として、「小児の画像検査及び内視鏡検査における静脈麻酔による鎮静」について、３ヶ月後及び６ヶ月後のインシデント PDCA シートで確認しました。CT、MRI 検査等、単剤を用いての鎮静は従来通り小児科が行い、内視鏡検査時の鎮静は麻酔科が施行する等、両診療科で役割分担がなされている、との評価が得られています。事例に基づいた PDCA サイクルがうまく機能しているようです。今後も必要に応じて PDCA シートを用いての継続的な運用、評価や見直しを宜しくお願い致します。

今年度、画像報告書見落とし防止策が策定され、１１月１日より運用を開始した、とのこと。目的外診断があった場合、放射線科から医療安全管理部へ画像報告書が送付され、それを受けた医療安全管理部は、まずカルテで確認した上で、診療科へ「画像報告書確認依頼書」を送付後２週間以内に返送してもらい、カルテ確認が再度なされていました。また、緊急連絡済みの場合も放射線科から画像報告書が送付されるため、医療安全管理部で対応状況について漏れなくモニタリングできているようです。大変な労力とは思いますが、半年程経過した後に運用の評価をするなどして PDCA サイクルを継続的に実践していただければ幸いです。

2.　令和２年度の医療安全対策マニュアル改訂のポイントについて

病院機能評価受審や当委員会での指摘を踏まえ、病院として取り組むべき課題を業務改善計画に組み込んだこと自体を高く評価致します。今回、1）画像報告書見落とし防止対策と、2) Rapid Response System (RSS)要請基準の改定、を行ったことをあげていただきました。1）については、以前から行ってきた電子カルテ・メール機能を用いた画像報告書の通知だけでは防止策としては不十分との指摘を受けての改訂であり、内容は上記１の、依頼医師が画像報告書を把握したことを確認できる対策が追記されています。2) RRS 運用については、前回の監査委員会の講評で、「ハリーコールの前に RRS が発動され、致死的な急変が未然に防げたケースが含まれているのではないか」、と述べましたが、明らかな事例はないものの、急変の予兆を早期に捉えることを重視し、RRS チーム要請基準の見直しを行うことで、より早期に急変の予兆を察知して RRS チームを要請できるように要請基準の改定を行ったことも高く評価できます。

3.　令和２年度の医療安全に係る研修の開催状況について

今年度は COVID-19 感染防止の観点から研修会場への入場者数を制限せざるを得ず、研修終了後にオンラインで受講できる期間が設けられていたためでしょうか、全職員を対象とした医療安全教育研修では受講率が例年よりも高い結果でした。３％の医師のみ年度２回以上の受講を達成できていませんが、今年度末までには「院内安全教育研修未受講者対策」に則って対応することで全職員が規定回数に達するようです。次年度も COVID-19 対応のため、オンライン研修との併用が続くことが予想されますが、講演に参加できなかった職員に対しては、例えばオンライン視聴終了 1 週間前の時点の未視聴者に直接促すなど、視聴期間内に確実に視聴するためのちょっとした工夫はいかがでしょうか。医療安全実践セミナーで通年開催している救急蘇生法の演習を、今年度は COVID-19 院内クラスター発生防止のため、予定開催の約半分は中止した、とのことですが、全面的に中止とせず、予定の半分でも継続できていたのは素晴らしいです。

以上

令和３年３月３１日

福岡大学病院医療安全監査委員会
委員長　古賀 和徳
（産業医科大学病院　医療安全管理部長）